



2023年11月27日

各位

会社名 株式会社エノモト
代表者名 代表取締役社長 武内 延公
(コード番号：6928 東証プライム)
問合せ先
役職・氏名 経営管理グループ担当執行役員
企画管理部長 武井 勉
電 話 0554-62-5111

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2023年11月27日開催の取締役会において、自社の資本コストや資本収益性についての現状を分析・評価し、改善に向けた方針を決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 現状評価

当社は、中期経営計画1stステップ(2021年4月～2024年3月)において、2022年3月期に当初の2024年3月期の営業利益目標であった20億円を達成したことから、2022年5月に目標を上方修正いたしました。しかし、市場が調整局面に入ったことから2023年3月期は営業減益となり2024年3月期も中期経営計画未達を予想しております。

現時点において、当社のPBRは0.5倍前後にあり、企業価値の向上は急務であると認識しております。ROEの向上を意識した経営は必須であることから、1stステップの目標として掲げたROE 9%を早期に達成すべく、次期中期経営計画の策定を進めております。

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高 (百万円)	21,047	22,647	22,999	27,250	29,265
営業利益 (百万円)	1,131	1,358	1,563	2,012	1,561
当期純利益 (百万円)	912	912	1,489	1,545	1,269
ROE (%)	6.1	5.9	8.5*	8.7	6.4
PBR (倍)	0.52	0.43	0.51	0.63	0.53

* 2021年3月期 繰延税金資産の計上による一時的なROE上昇分を控除

2. 改善に向けた方針と取組み

(1) ROE の改善

① 利益率改善・利益成長

・経営資源の選択と集中

a. 成長性の高い分野への効率的な資源投下

b. 付加価値の取込み

c. メッキ工程の強化および内製化による、付加価値の社内取込み

② 資産効率向上 (ROIC 向上)

・収益性の向上策

a. ROIC を意識した各工場単位の KPI を設定および細かな目標管理

③ 株主資本の適正化

・配当政策

a. DOE 2.5% を下限とした増配トレンド継続による株主還元の強化

(2) 株主資本コストの最適化

① β 値の抑制

・IR 活動の充実

a. 機関投資家向けおよび個人投資家向け説明会の各 2 回/年の実施

b. 統合報告書の発行

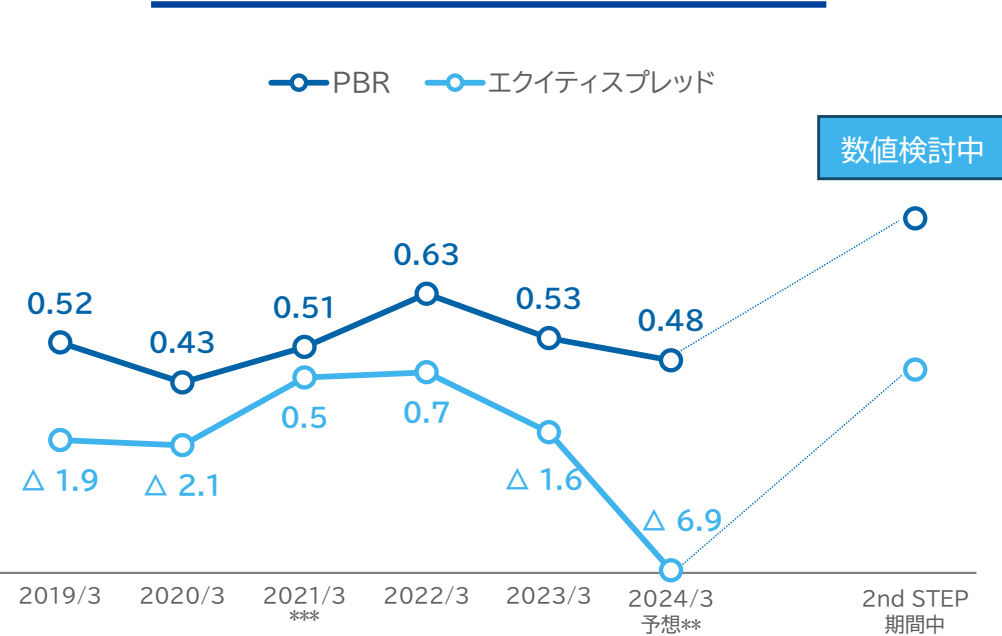
以上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

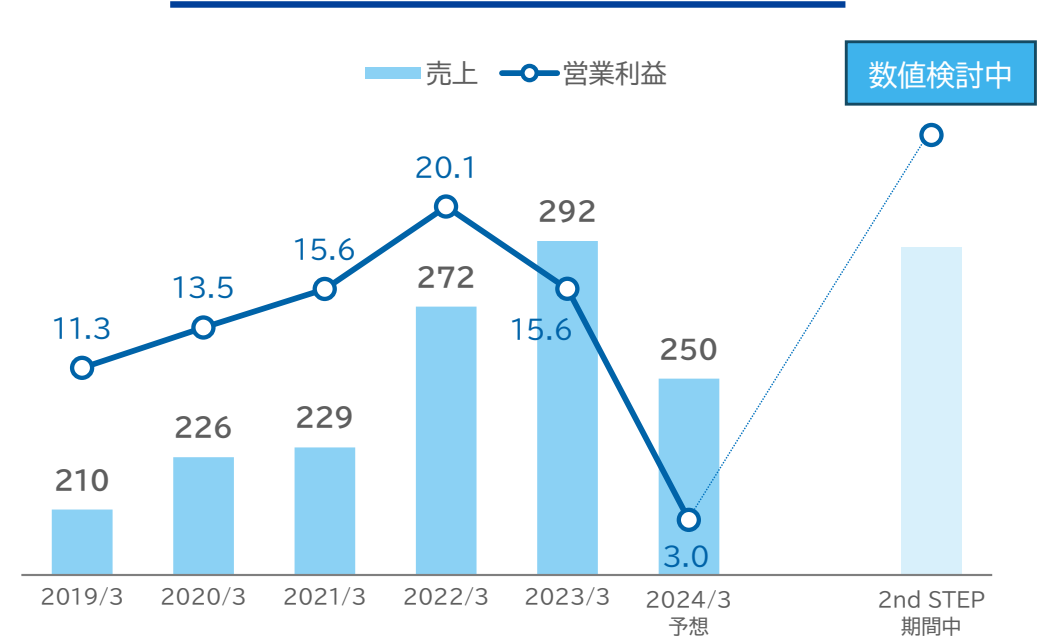


- 株主資本コストは7~8%と認識
- 配当政策DOE発表前のPBRはエクイティスプレッド*と一定の相関性
- 1stステップにおけるROE目標9%を次期中期経営計画(2nd ステップ)期間中に目指すことを検討中
エクイティスプレッドを拡大し、PBR向上を目指す

PBR・エクイティスプレッド (単位:%)



売上高・営業利益 (単位:億円)



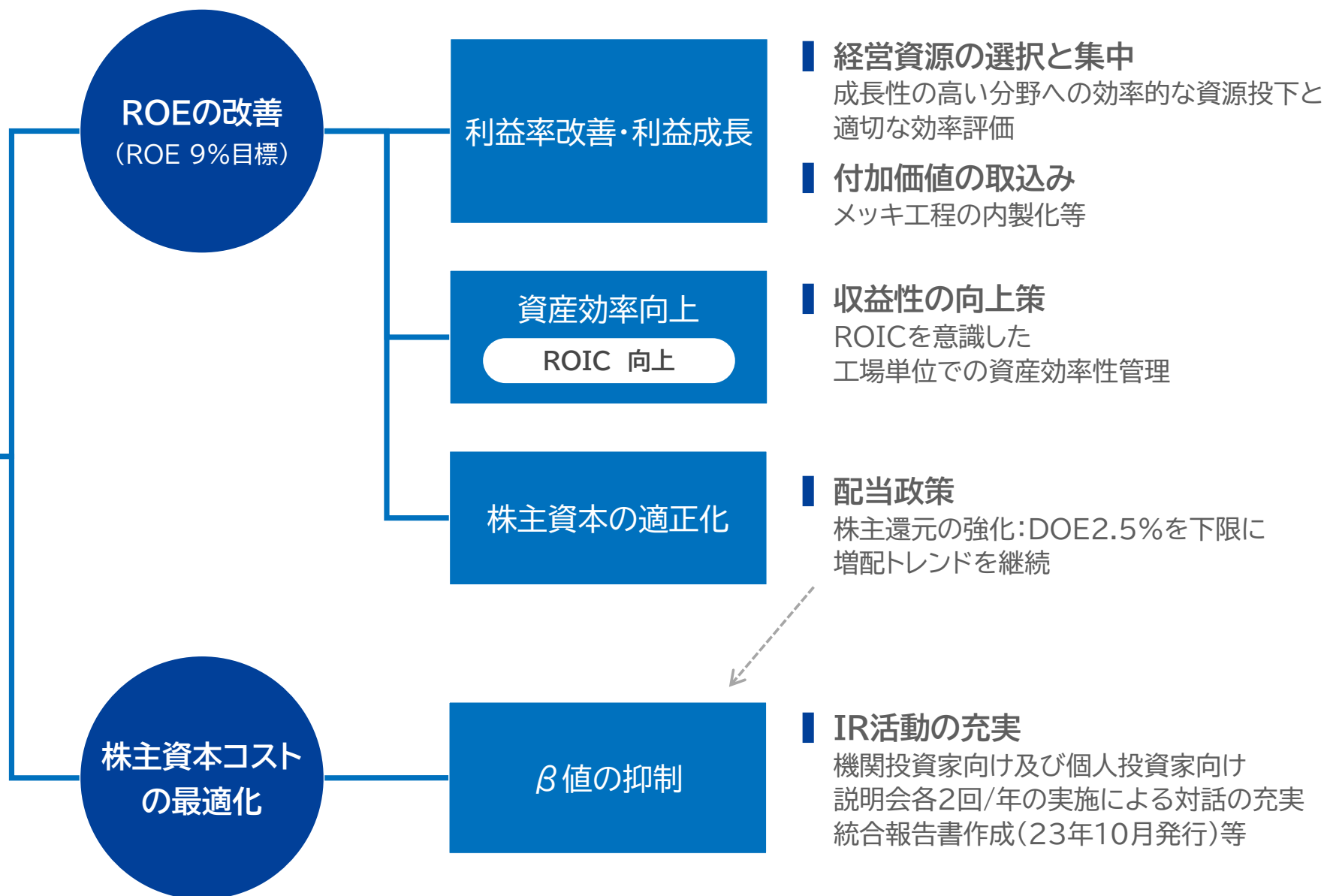
*エクイティスプレッド=ROE-株主資本コスト(株主資本コストは8%で計算)

** PBRは2024/3月期2Qの株主資本と10月末株価で算出
足元においては配当政策を評価され、配当利回りが株価の下支えとなり
大幅なマイナスのエクイティスプレッドをカバーしていると推定

*** 2021/3月期
繰延税金資産の計上による一時的なROE上昇分を控除

現在、次期中期経営計画を策定中しており、2024年3月期決算発表時に公表予定

企業価値 最大化



- 2nd STEP期間中に、1st STEPの2年目に上方修正した数値目標の達成を目指す
- ビジョン2030(2022年3月期～2031年3月期)の10年間で各施策を実行し、ビジョンの実現を図る
- ベース目標として2031年3月期までに営業利益35億円を達成する

